

平成26年度事業報告書

(平成26年9月1日から平成27年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

(1) 事業活動の状況

フードバンク関西は、平成27年8月31日をもって第12期会計年度を終了する事が出来ました。

当法人は、食品関連企業や個人から、食べ物としての品質には問題のない食品の寄贈を受け、要支援生活者を支える非営利福祉団体や施設に無償分配するフードバンク事業、行政から支援要請を受けた市民への緊急食糧支援を行う食のセーフティネット事業を継続事業として取り組みました。さらに、困窮状態にある母子家庭への多面的なサポートを行う「子ども元気ネットワークひょうご」事業を、認定NPO法人ウィメンズネットこうべ、NPO法人フリーヘルプと協働して本年4月から開始し、当法人は対象世帯に月1回の食糧支援を行っています。

私達は上記の活動を通して、命の糧である食べ物を、廃棄する事無く大切に活かし、支援を必要とする人達の食生活を少し豊かにして自立への意欲を促し、市民が自ら出来る事をして支え合う社会の実現に寄与したいと考えています。

平成25年12月27日、平成19年以降3回目になる認定NPO法人格を兵庫県から受けました。平成30年12月までの間、当法人への寄付は、所得税、法人税の優遇措置を受ける事が出来ます。

本年度末時点で、54人のボランティアが各々作業を分担し、月延100回近くに及ぶ食品搬送と事務所での検品、仕分け、入在庫管理作業に取り組んでいます。

① 余剰食品の受領と福祉団体への無償分配について

1) 食品提供企業数、取扱量、受取団体数

当期、フードバンク関西は新たに食品関連企業15社と「食糧等の引き取りについての確認書」の交換を行い、確認書の交換を行った企業はこれで延べ97社になりました。平成26年度1年間に、食品関連企業28社から定期的あるいは複数回、13社から不定期に食糧の寄贈を受け、一般企業15社から災害備蓄食品の交換時に発生する旧品の寄贈、個人の皆様から324件の宅配便による食品寄贈を受けました。また新たな取り組みとして家庭で余っている食品を持ち寄るイベントであるフードドライブを、各社協その他17団体と協働して行いました。

食品の年間取扱量の総合計は175トンでした。これは昨年度と比較して8トンの増加となりました。大型量販店から出るパン野菜果物の量が昨年度より減少し、その代わりに多くの企業からの食糧提供を受ける事が出来、取扱食品の種類が増加しました。この内、災害備蓄食糧は2.8トン、個人からの寄贈食品は米その他で7.4トンでした。またフードバンク団体間の食品のトレードは、セカンドハーベストジャパン、セカンドハーベスト名古屋、ふうどばんく OSAKA との3団体とのやりとりで、全体の18.7%にあたる32.7トンを受領し、1.6トンを提供しました。

それら食品を活用して下さる、支援を必要とする人達を支える福祉団体、福祉施設数は、食のセーフティネット、子ども元気ネットワークを含めて、年度末現在で100団体でした。

2) フードドライブ

本年度4月以降、家庭で余った食品を集めるフードドライブに力を入れました。年度中に他の団体との協働による延21回のフードドライブが実施され、751キロの食糧寄付を受けました。今後、さらに内容が充実する事を期待したいと考えます。

5月に株式会社シャープの労使共同ボランティア組織主催の「若草山グリーンキャンペーン2015」に、当法人がフードドライブで共催させていただきました。これは企業とのコラボレーションのスタートとして、画期的でした。

各地域の社会福祉協議会、消費者団体との協働によるフードドライブが今秋いくつか予定されており、今後諸団体への働きかけを強めていきたいと考えます。

フードドライブは、家庭からの食品廃棄が年間200万から400万トンである事を考えると、食品ロス削減の意味でもこのイベントが市民に周知され、「家庭で余った食べ物はフードドライブに出そう」「缶詰一つ、米カップ一杯からの助け合い」という市民感覚になるよう、あらゆる機会を通じて市民への広報活動を活発化したいと考えます。

② 食のセーフティネットについて

1) 地域の拡大と支援件数の増加

2012年から着手した、困窮した市民を対象にした行政との協働による食のセーフティネット事業は、既に仕組みが稼働している芦屋市、尼崎市、伊丹市、西宮市、川西市に加えて、平成27年4月1日に宝塚市が加わり、仕組みの稼働地域が6市に拡大しました。尼崎市では、事業協定書の有効期限が、協定先の尼崎市民福祉振興協会の解散により3月で切れ、新たに8月末に市と直接の事業協定書が交わされました。その間の5カ月間、尼崎市への食糧提供が中断したため、平成26年度中の支援件数は、昨年度並みの221件でした。他市からの支援要請件数は増加の一途をたどっており、次年度の支援件数は大きく増加すると思われま

す。この事業で活用する食品は、利用者の住環境に電気ガス水道のインフラが整っていない可能性や、事故防止の意味から災害備蓄用食品、缶詰、レトルト食品等、保存性が高く常温保管が出来、調理が不要なものに限定される事から、適切な食品の継続的確保が難しく、今後の需要の増加に対して供給を確保できるかの不安が残りました。

フードバンク関西が取り扱う食品を、地域の困窮世帯への緊急支援食糧として活用する事の意義と効果を実感していますが、この事業を長期継続するために、行政との互恵的な関係作りを図る必要があります。

2) 「第2回食のセーフティネット実務者による研修会」の開催

平成27年1月20日、この事業を開始して3年を経過した事に伴い、総括と問題点の検討のための、「第2回食のセーフティネット実務者による研修会」を、芦屋市、尼崎市、川西市、伊丹市、西宮市、神戸市、兵庫県の行政担当者、社会福祉協議会担当者37名と当法人スタッフ12名の参加を得て、芦屋市民活動センターで開催しま

した。関西大学教授松原一郎先生の議事進行により、「食のセーフティネットにおける、行政とフードバンク関西の協働の形」について、今後の展望を含めて話し合いました。今後もこのような集まりを継続していく事になっています。

③ 子ども元気ネットワークひょうごについて

少子化が叫ばれる中、次代を背負う大切な子供達の16%つまり6人に一人が、衣食が足りない貧困の中にいることがわかりました。そこでフードバンク関西と認定NPO 法人ウィメンズネットこうべ、NPO 法人フリーヘルプが協働して、4月から新しいプロジェクト「子ども元気ネットワークひょうご」を立ちあげました。これは女性と子供支援で実績を持つウィメンズネットこうべを窓口にして、貧困な環境で子育てをする母子家庭を対象に会員を募り、ウィメンズネットこうべは相談事業と子ども達への学習支援、フードバンク関西は月1回の食糧提供、フリーヘルプは3か月に一度の衣料品支援というように、各々のNPOの得意分野を活かして多面的な支援をするものです。初年度という事で20世帯への支援を目標にしました。

毎月郵便で届く会員からの食品受領書通信欄には、月1回の食品受領が家族の大きな楽しみ、心の癒し、安心感となっている事が綴られ、私達ボランティアの励みとなっています。

④ 広報活動

1) インターネットの活用、講演活動

本年度も昨年度に引き続き、市民の皆さんに私達の活動を知っていただく事が運営基盤強化に繋がるとの認識に基づき、広報活動に力を入れました。

ホームページ、FACEBOOK、GOODDO等、インターネットを介して、広範囲な市民へのアピールと支援要請をする機会としています。広範な市民への情報提供、情報拡大の方法として効果が大きいと実感しています。

市民団体、地域団体でのプレゼンテーション、大学の特別講義等、活動紹介の要請があれば必ず出向き、年度中に11回の活動紹介を行いました。

2) 報道機関からの取材

平成26年10月10日、関西テレビ「スーパーニュースアンカー」の取材を受け、10月20日に放映されました。また、JCOMによる世界食糧デーの特別番組でも取材を受け10月16日に放映されました。

NHK 学園高校の冊子、神戸新聞平成27年1月29日朝刊（伊丹市からの粉ミルクの提供）、神戸新聞4月2日朝刊（子ども元気ネットワークひょうご）、朝日新聞5月9日朝刊（子ども元気ネットワークひょうご）、神戸新聞5月5日朝刊社説、コムス会報誌2015夏、共同募金ニュース2015VOL1、消費者情報2015年6月号、パルタウン8月号、等々新聞や会報誌の取材を受け、活動紹介の記事を掲載していただくことができました。

3) 平成26年秋、第6回ラッフルキルト

第6回ラッフルキルトは、キルト作家の先生方から3点の作品の寄贈を受け、数多くの協賛企業から寄贈された食品類、4つのホテルの宿泊クーポン等、209点の賞

品を揃えることができました。キルト作品の一つは、作家の先生から母子生活支援施設へプレゼントされました。

今回のラッフル寄付総額は、55万9千円となり、フードバンク関西の活動運営費として、大切に活用させていただいています。

4) 食育プログラム小学校低学年向き60分講座の完成

日頃、飽食の中で食への関心が低くなっている子供達に「食べ物は命の糧、大切にしよう!」というメッセージを伝える事を目的に、NPO法人C・キッズネットワークと協働で食育プログラムの作成をする事になり、兵庫県社会福祉協議会からの助成金50万円を得て、小学1年から3年の児童を対象にした食育プログラムを製作しました。C・キッズネットワークの皆さんの子ども対象プログラムへの専門技術を直接学ぶことができ得難い経験になりました。去る7月25日の芦屋市民活動フェスタで、フードバンク関西スタッフによる初回講座を行い、子ども達、出演スタッフ共々楽しい時間を共有しました。

本年4月以降も、兵庫県社会福祉協議会からの助成金を得て、高学年を対象としたプログラムを協働で制作しています。

(2) フードバンク関西への評価について

①賛助会員、個人の皆様からの支援

フードバンク関西の賛助会員からの本年度会費の入金は延べ263件、さらに一般からの寄付が158件、ラッフル寄付が138件ありました。これら一般市民の皆さまからのご支援が当法人運営資金の69%を占めており、多くの皆様のご支援に支えられ、この活動を継続出来ている事を、ボランティア一同、心から感謝しています。

事務所に宅配便で届けられる食品の寄付も本年度324件となりました。

これらお金の支援や食品の寄付を全国からお寄せいただけるのは、当法人の事業を評価し、応援して下さる方々がたくさんいて、私達の活動に大きな期待を寄せて下さっている事の証です。ボランティア一同、事業内容の充実を図り、活動に励まなくてはならないと考えています。

②本年度受領した助成金

昨年10月にコミュニティサポートセンターこうべから活動運営費として30万円の助成金を受けました。続けて同月に共同募金会から平成26年度社会福祉関係団体NPO支援事業配分金として30万円を受領しました。12月には、セカンドハーベストジャパンアライアンスから設備のイノベーション費用として60万円の助成金を受けました。これを活用し次年度から開始される施設設備内容についての監査に対応できる設備の充実を図ることができました。平成27年4月には住友ゴム株式会社から、子ども元気ネットワークひょうご等の配送費用として25万円をいただきました。また4月に昨年度申請していた「食育プログラム作成」への助成金として当法人に50万円が入金され、協働したC・キッズネットワークと分担分に沿って分割しました。

クレジットカードによるギブワン寄付がパブリックリソース財団から助成金として毎月入金されますが、年度合計で30万円余りとなり、大きな支えになっています。

(3) フードバンク関西がかかえる問題点

①食品の種類ごとの需給バランス

本年度、取扱食品の種類については、新たに参加した食品企業からの冷凍食品が加わり、副食材料として活用できる食材が多くなりました。受取団体への食糧の分配は種類の増加という意味で、改善が見られたと考えます。

しかし、食のセーフティネット事業の拡大に伴い、この事業で必要とされる常温保管で安全性が高く、調理がほとんど不要な食品、即ち米、アルファ米、缶詰、レトルト食品は、在庫量は従来通りですが、出庫量は増す一方となりました。家庭からの余剰食品を集めるフードドライブがその解決の一手段となり得ると期待されますが、今後これら食品をどの様にして集めるかという問題の解決が急がれます。

②運営費の安定的確保

当法人は、運営費の大半を寄付に頼っていますが、皆様の信頼と応援を受けて活動出来る幸せを、ボランティア一同大変嬉しく感じています。現時点で、現行の規模を保ちながらの事業継続は、賛助会員の皆さま、一般市民の皆さまからの継続的支援があるという前提のもと、地道に継続する決意ですが、規模の拡大に伴う大きな変化への備えが課題です。

(4) 今後の展望

日本には膨大な量の食品ロスがあり、これらの食品を食べ物として活かし、支援を必要とする人達に届けるフードバンク事業は、まだまだ拡大発展する必要があります。フードバンク関西は、地域における地道な活動を継続して、無駄のない、市民が互いに支え合う地域社会の実現に寄与していきたいと考えます。

ボランティア一同、皆様のご支援を背に受けて、努力を継続していきます。

今後とも、私達フードバンク関西の活動に、ご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

(5) フードバンク関西の概況

- 1 法人設立 平成16年1月26日
- 2 認定NPO法人の認定
国税庁からの認定 平成19年11月19日
再認定 平成21年10月19日
兵庫県からの認定 平成25年12月27日
認定期間 認定を受けた日から平成30年12月26日までの間
- 3 主たる事務所 兵庫県芦屋市呉川町1番15号
倉庫 兵庫県芦屋市呉川町5-4-S104
- 4 役員
理事長 浅葉 めぐみ
副理事長 川崎 知浩
副理事長 井上 正巳
理事 山本 茂
理事 川西 美年
理事 西村 秀明
理事 小島 秀元
監事 大野 貞明
- 5 正会員 (敬称略 アイウエオ順)
浅葉 めぐみ 荒井 昌明 芦高 康文
井坂 千代子 井上 正巳 岩田 喜行
大野 貞明 大舘 光雄 奥野 振一郎
小島 秀元 川崎 知浩 川西 美年
貴志 久美子 黒木 康仁 島田 恒
田中 淳司 近本 博文 手島 昭雄
中島 真紀 西村 秀明 橋本 謙二
松尾 粒一 松本 美佳子 向 貴美子
山地 昌子 山田 美智子 山本 茂
横江 陽子

以上